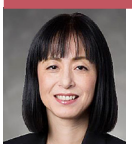
RELAY TALK #300



紹介者
渡辺 治子
アメリカンホーム医療・損害保険
取締役社長 兼 CEO

毛呂 准子
商船三井
取締役

93歳のマネジメント

93歳の父は、昨年初め２カ月の入院を経て、突然、車いす生活となりましたが、都内のマンションで一人暮らしをしています。

退院時に慌てて、車いすで室内を移動できるよう模様替えをしたほか、玄関の鍵をスマートキーにしたり、室内数カ所にマジックハンドを置いたり、電子レンジをドアの開閉しやすいタイプに買い替えたり、細かな工夫を重ねて１年半一人暮らしを続けています。一人娘の私が実家に行くのは週１、２回。ヘルパーさんに加え、体調管理の看護師さんとリハビリ担当の作業療法士さんの訪問も受けています。娘としては施設に入ってくれた方が安心ですが、自宅暮らしに対する本人の強い意志は固く、揺らぎません。

ヘルパーさんは４人が交代で朝晩１回ずつ訪問してくれるのですが、父は一人ひとりにこれまでの仕事経験を聴き、何が得意か上手かを把握し、買い物・掃除・洗濯・ごみ捨てなど各種の家事を、いつ誰に頼むか、訪問介護予定表を見ながら時間内に収まるよう綿密に計画を立てています。家事の細かな段取りの理解には目を見張るものがあり、記憶力の衰えも感じさせません。

父は企業人でしたが、リタイアして30年余、妻に先立たれ、自由が利かなくなった自分をサポートしてくれるチームをマネジメントするとは本人も想像していなかったでしょう。父の現役時代の部下マネジメントの様子を知る機会もなく、あまり興味もなかったので話を聴いたことはありませんでした。93歳の今、フィジカルな不自由さとそれに伴うもどかしさから、過去のマネジメント経験が呼び覚まされ、マネジメントスキルはさらに進化しているのではと推測しています。失った力と復活する力、人生100年時代の生涯発達事例として、お恥ずかしながら紹介させていただきます。

▶▶次回リレートーク
太田 寛
シグマクシス・ホールディングス
取締役社長